



新眉山クラブ
山下 博正
議員

▼観光行政について

Q 九州各地で観光連携が広がる中、長崎県はどのようなスタンスなのか。また、島原半島三市で島原半島観光連盟が結成されているが、どのような事業がなされ、組織の拡大は考えられないのか。

A 広域観光連携の状況は、県内では三つの地域が観光圏事業に取り組んでいる。島原半島三市と熊本県天草地域の三市一町で構成する雲仙天草観光圏のように県域を越え広域連携に取り組んでいるものもある。島原半島観光連盟は、島原半島全域を対象として観光マップの作成やクーポン事業、雑誌・マスクミ等でのPR、半島三市が参加した修学旅行誘致活動などに取り組んでいる。また、島原半島ジオパーク推進連絡協議会と同じ場所に事務所を置き、互いに連携を取りながら事務局の強化を図っている。

▼精霊流しについて

Q 精霊流しをリニューアルし島原の活性化につなげていくべきだと考えるが、現状

をどう考えるか。

A 精霊流し行事は、伝統行事として全市一体となった取り組みを行うため、精霊流し行事実施協議会で運営がなされている。白山地区健全育成協議会では精霊船づくりから子供たちと一緒に地域ぐるみで取り組んでおり、保存、継承に大きく貢献されている。今後とも協議会と連携しながら、あり方について検討していきたい。

Q 灯笼の灯りを使う割には華やかさがなく、演出の工夫が足りないのではないのか。

A 切子灯笼は島原独特の形で郷土の伝統工芸であり、精霊船を担いでかけ声を合わせ進む姿は勇壮で、ほかとは違った魅力を醸し出していると考えている。

Q 観光資源としての戦略的な活用がなされていないのではないのか。

A 観光形態として参加型、体験型の観光が注目され、全国各地で取り組みが行われている。精霊流し行事などの伝統行事に参加、体験してもらうことは、知名度向上とイメージアップにつながり、観光振興に寄与すると考えるので、今後精霊流し行事実施協議会と一緒に、受け入れ態勢などを考慮しながら検討していきたい。

【その他の質問項目】

◇環境行政について



真政の会
安藤 幽明
議員

▼組織改革について

Q 今度の組織改革に対する市民の評価はどのようなものと理解しているのか。また、職員の中での変化と評価はどうか。

A 市民皆様からのわかりづらい等の意見も少なくない、慣れ親しんだ名称の変更に對する抵抗感も薄らいだと考えますが、今後とも市民の皆様様に混乱が長引かないよう努力したい。また、部制導入の意図は、職員の総戦力を目指すことであり、できる限り速やかにその目的が達成されるよう意識改革に努めており、職員もそうした共通認識のもと業務に当たるよう、さらに努力しなければいけない。

▼龍馬像について

Q 今回の龍馬像の受け入れまでの経過はどうなっているのか。なぜ必要なのか。

A 県観光連盟及び日本サッカー協会から、龍馬像移設の提案を受け、七月十二日の全員協議会で、受け入れの方向でサッカー協会と折衝したい旨を説明し、翌日上京し承

諾いただいたところである。この像を島原に持つてくることによりサッカーのメッカにしたいという思いもある。また、四年後には国体が開催されるが、その成功に向けたシンボルとして、また、スポーツイベントや観光誘致の目玉として設置することは有意義ではないかと思いい、そのために幅広く、市民の賛同を得るため募金活動を実施することにした。

▼都市計画道路について

Q ①二十二路線の進捗状況、②長池三会線、靈南山ノ神線の進捗状況とその後計画はどうなっているのか。

A ①二十二年三月末の整備状況は、全線完了、一部完了及び暫定供用を合わせて、十八路線の約二十六キロメートルで、進捗率は五十七%である。
②長池三会線の萩が丘一丁目以南については、再度、県に要望したところであり、靈南山ノ神線については、用地交渉を進めており、二十四年度末の完成を目標としている。その後、長池三会線につなげるように推進していきたい。

【その他の質問項目】

◇海浜公園について

◇集団検診について